

(仮称) 篠路駅周辺地区まちづくり計画 第 2 回地域協議会 議事要旨

【日時】 令和3年10月5日(火) 18:30~21:00

【場所】 篠路コミュニティセンターホール

【出席者】

○地域協議会委員

所属/役名等	氏名(敬称略)
太平百合が原連合町内会/会長	庵跡 邦子
篠路地区街づくり促進委員会/会長	井形 信広
わきあいあい篠路まちづくりの会/会長	石本 依子
篠路小学校PTA/会長	菊地 智昭(欠席)
拓北・あいの里連合町内会/会長	近藤 幸一
篠路茨戸地区社会福祉協議会/会長	白戸 黎一
篠路茨戸連合町内会/会長	進藤 幸司
アカツキ交通/常務取締役	春原 啓慶
篠路中央商店街振興組合/副理事長	寺田 哲
区画整理地権者	中西 昌裕
篠路駅前郵便局/局長	西村 司
篠路神社/宮司	森 泰文
しのろ紙袋ランタンまつり実行委員会/実行委員長	吉田 愛美
篠路コミュニティセンター/館長	吉田 美雪(欠席)

※五十音順

○ オブザーバー

所属/役名等	氏名
北区市民部 篠路出張所/篠路出張所長	高松 幸一

○ 事務局

所属/役名等	氏名
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/事業推進課長	小仲 秀知
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画調整担当係長	吉原 康次
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画係	大路 陽介
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画係	平 将太

【議事・進行】

1 はじめに

- 開会（挨拶、事務連絡）

2 議事（資料1）

- 前回のおさらいと補足
- まちづくり計画について
 - まちづくり重点エリアの方向性
 - 各エリアに期待される機能
 - 市有地利活用具体化に向けた前提条件の整理
 - 機能の配置例と効果
- 地域主体のまちづくりの取組・活動について

3 次回日程の案内など

【議事要旨】

1 はじめに

○開会（挨拶、事務連絡）

（事務局）

- ・昨年9月に第1回目の地域協議会を開催して以降、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて人が集まるような会議が難しい状況が続き1年が経った。一方で、こうした会議の開催方法も多種多様化しており、書面やインターネットを活用したweb開催などが身近にできるような状況になった。様々な手法を見据えて開催を模索していったところ、未だ予断を許さないものの感染者数が減少し先月末で緊急事態宣言が解除されたことも踏まえて、感染予防を行ったうえで、会場にて開催する運びとなった。
- ・本日の会議は前回の開催から一定期間が過ぎてしまったので、まずは前回の議論を振り返り、その上で今後のまちづくりの方向性についてご検討、ご意見を頂戴したい。委員の皆様には様々な忌憚ないご意見を頂きたい。

2 議事

○ 資料説明

➤ 前回のおさらいと補足

（事務局）

（計画策定の目的の再確認）

- ・篠路駅周辺地区は篠路村の時代から始まり、北区北部地域の中心として栄えてきた地域であり、札幌市のまちづくりの上位計画である「札幌市まちづくり戦略ビジョン」でも「地域交流拠点」として位置づけられている重要な地域。今後、鉄道高架化事業や土地区画整理事業、周辺道路整備事業が進むが、これらの社会基盤整備に加えて、低未利用な状態となっている市有地や駅前の利活用を図るほか、地域主体の多様なまちづくり活動の展開により、もっと住みよいまちになって頂きたい。そこで、これらを踏まえて、今後のまちづくりの方向性・展開を示すものとして、新たなまちづくり計画を作る。

（篠路のまちづくりの柱について）

- ・今後のまちづくりについては4つの柱で進めたい。「社会基盤整備」、「市有地の利活用」、「東口駅前街区の活用」、「地域主体のまちづくり活動」を掲げている。これら4つのうち「社会基盤整備」については既存の計画に基づく事業なので、今回の計画で議論するものではない。今回議論する内容は、「市有地の利活用」、「東口駅前街区の活用」そして、「地域主体のまちづくり活動の方向性」についてである。地域主体のまちづくり活動の具体的な活動は、活動の担い手となる方がいて初めて実現性が出てくるものな

ので、計画では方向性までを主に議論させていただき、実際の活動については個々の担い手や活動する方に委ねるという考え方である。しかし、「こういう活動が必要、こんな活動をしてみたい」など活動のアイデア出しをしていただくと将来的な展開に繋がりやすいと思うので、この点についてもご意見頂きたい。

(まちづくりの段階的な検討・実現のイメージについて)

- ・資料上段の赤い矢印でまちづくりの大まかな段階を示しており、今現在は「計画検討・具体化方策検討段階」にある。今後「計画に基づいた個々の土地活用の具体化」を経て「エリア価値の向上」に繋げていきたい。資料中段の市有地活用と駅前利活用については、まちづくり計画の策定後、市有地と駅前の利活用を目指しているが、場所ごとに所有者や現在の利用状況などが異なっており、他の拠点と比べても駅利用者も少ないため、現況の商圈などをもとに同時に開発等を進めるのではなく、まずは市有地のA・C街区について具体化させて、地区の魅力やポテンシャルの段階的な向上により、順次、市有地のB街区や駅前街区の利活用に繋げていきたいと考えている。最終的には駅前街区に限らず土地区画整理事業区域の全体に波及効果が出てくることを目指す。まちづくり活動についても、今回の議論をきっかけとした取組については、共有段階、協働段階、成熟段階と少しずつステップアップしていければと考えている。

(地域協議会の目的、議論する内容の再確認)

- ・地域協議会の目的は大きく2点。1つ目は、まちづくり計画に関する内容の確認と意見を頂くことであり、札幌市からたたき台を示し、委員にそれに対するご意見を頂き、計画に反映して、策定を進めていく。2つ目は、地域主体のまちづくりの取組・活動のアイデアを頂くことであり、地域協議会ではアイデアの整理、例えば活動や活用場所の例などを出していただきたい。既に活動している方や、これから新しく活動する方が出たアイデアを参考にし、検討、実践していくことを期待している。

(地域協議会の流れについて)

- ・全5回の開催を予定しており、昨年度9月に第1回を開催した。本日は第2回で、「まちづくり重点エリアの方向性」の共有と「地域主体のまちづくりの活動・取組」について意見交換をお願いしたい。次回の第3回については、本日の議論などを踏まえて、地区全体としての方向性を具体化するにあたって展望を共有するとともに、地域のみなさんが担える「活動・取組」について意見交換したい。これら3回目までの内容をまとめて、第4回ではまちづくり計画の素案をご確認いただくとともに、検討してきた「活動・取組」の具体策、将来的な展望について意見交換し、第5回ではまちづくり計画(案)の最終確認とこれまで検討してきた「活動・取組」

の具体策について意見交換する。当初は今年度末の計画策定を予定していたが、コロナの影響により遅れたため、来年度末の策定を目指している。

(まちづくり計画の構成図)

- 前回、まちづくりを進める上での基本理念として「誰もが暮らしやすく笑顔あふれるまち」を掲げた。それを踏まえた目指すまちの将来像として「暮らし」「つなぎ」「魅力」の3つを掲げ、更にまちづくりの方針として「住まいを豊かにする」「にぎわいをつくる」「まちの資源を生かす」「回遊性をつくる」「土地利用や街並みを考える」「まちを活用する活動」の6つに分けて表現している。これらはいずれも過年度に実施したワークショップの議論をとりまとめた「みんなの想い」を基にしている。本日はこれらを踏まえて、各エリアの方向性と今後の展開についてご議論していただきたい。

(まちづくりの方向性(案)の再確認)

- 既に機能が集積している西エリアと新しく重点エリアとする駅前エリア、東エリアの3つのエリアにバランスよく機能が配置され、様々な地域活動で全体のまちづくりを支えることを目指す。

(第一回地域協議会でいただいたご意見について)

- 第一回の地域協議会では、「篠路地区の現状や期待することについて」、「今後の篠路のまちづくりに必要だと思うこと(将来像や取組など)」について、「自分たちや地域に出来ると思うこと」についてご意見を頂いた。
- 「篠路地区の現状や期待することについて」は、地区全体について、「人口を流出させないための取組は必要」「篠路は住宅地であり何かをつくることは結構難しい」「イベントに関して住民の周知にムラがある」「自然豊かな景観、機能を残すことが重要」「シンボリックなものがなく、篠路駅周辺に住んでいる意識が薄いのではないか」といったご意見を頂いた。駅前エリアに関しては、「昔は駅前も発展していたが、いまは食堂や商店がなくどっちつかずになっている」「歩いていける距離にスーパーが必要」「若い世代に入ってもらうために住宅や共同住宅も視野に入れるべきではないか」といったご意見を頂いた。東エリアに関しては、「温浴施設を望む」「西エリアは銀行や医療が集中しているが、東エリアは異なる用途が来てもよい」「カフェなど集える場所もあるとよい」といったご意見を頂いた。そのほか、「10年後に事業が完成した際に、篠路をどのように次の世代に渡していくのか考えた計画にしていくことが重要」というご意見、傍聴者アンケートからは「だれもが暮らしやすく笑顔あふれるまちの土台には、安心安全が入ると思う」「女性や若者の仕事場の確保、企業の間が必要」「駅前エリアに関しまして、小さな商業エリア、戸建エリア、老人施設エリア、公共施設エリアを指定してまちづくりを計画していくのもよい」といったご

意見を頂いた。

- 「今後の篠路のまちづくりに必要だと思うこと」に関しては、先ほどお示した3つの観点「暮らし」「つなぎ」「魅力」のそれぞれからご意見を頂いた。「暮らし」については、「イベントを行う空間が手狭であり大々的に行える場所が欲しい」「戸建てを市有地に埋めることは良くない」「公園的な空間にキッチンカーがきてもいい」「コンビニやスーパー的な小さな機能があるといい」というご意見を頂いた。「つなぎ」については、「事業が進み渋滞が解消し、南北の分断が解消することが重要」「家族で使える温浴施設やラーメン村を望む」「いまま公園や神社でお祭りなどをやっているが、いろんな団体が自由に使える広場があるといい」「高架化されるがそれだけでなく東西の行き来を生み出すような仕掛けが必要」「伝統や文化を伝えるスペースが必要」というご意見を頂いた。「魅力」については、「いま現在パークゴルフ場をスノーフェスティバルで活用しているように、現在利用できるところから利用することが必要」「昭和の街並み、赤レンガ倉庫がある景色など、逆にポジティブに捉えて強みとして活かす必要」「篠路の中心地・シンボルとしてやはり篠路神社が思い浮かぶ、これを上手く情報発信することが必要」「エリアで生活利便性が整っているまちを目指すべき」「集える場所を東エリアにつくる必要がある」といったご意見を頂いた。
- これらを踏まえて、「自分たちや地域にできると思うこと」についてご意見を頂いた。意見を多く出す時間が確保できず申し訳なかったが、「つなぎ」の分野では、「地域主体のまちづくりやイベントについて助成金など支援体制があれば考えると思う」、「魅力」の分野では「SNSなど若者向けの発信ツールも有効活用するなど、情報発信を継続していくことが必要」といったご意見を頂いた。

(第一回検討委員会の報告)

- 駅前、市有地の土地利用については、「駐車場、駐輪場を設けて駅が交通結節機能を果たすようにすべき」「高架化の先行事例を参考に考えていくべきでは」というご意見や、「企業等が大きなビルを建ててテナントに入ってもらいたい」というご意見も頂いた。
- 交通分野については、「新しい交通モードを考えていくことが重要」「公共交通は基本的に南北方向で、東西方向の行き来が車以外では難しい」というご意見を頂いた。
- ハード整備全般については、「人口増を狙うのであれば容積率を緩和する必要」「資料では地域と企業のニーズの接点が見えにくい」「商業施設の誘致には一定の人口があることが大前提のため人口増、流出減につながることを考える必要がある」というご意見を頂いた。
- まちづくり活動については、「新しく活動する人の受け皿となるような勉強会があるとよい」「実際に活動をする上で使える場所を探してみるのも一案」「キッチンカーは人気があるためイベント的にやるなら可能性はあると

思う」「旧琴似川のコミュニティガーデンは地域資源として活用したい」
「ヘルシーウォーキングのようなおもてなしと地域内の回遊を絡めたイベントは面白い」というご意見を頂いた。

- 計画全般については、「空間形成の計画やイメージを作るべきではないか」「エリアごとにこんな空間を形成していく、地域内の移動・交通はこういう手段、手法を目指すなどの要素を図面に落とし込んでまち全体のイメージとして作っていけるとよい」「旧琴似川は地域の資源・魅力だと思うので、うまく活用したい」といった意見を頂いた。
- また、その他として、「札幌は雪が多い地域であり、道路や駅前広場は大きくなりがちなのでそのことも考えていく必要がある」「雪についてハード的な対策は難しいと思うが、ソフトの取組ならできるかもしれない」といったご意見を頂いた。
- 第1回地域協議会、検討委員会でのご意見については、本日の資料に反映している。

(計画の目指す方向性について)

- 前回、まちづくり計画の目標期間を10年と説明したが、地域協議会などの場で今後10年間のその先も見据えた計画を考えていくべきというご意見があったので、この点について補足する。ご意見のとおり、数十年先を見据えた長期的な方向性を先に示すことも重要と考えている。数十年先をイメージするのは容易なことではないが、今後、人口減少が進むと、生活関連サービスの縮小や空き家・空き店舗の増加などによる生活利便性の低下、住民組織の担い手不足による地域コミュニティの低下などが懸念され、さらなる人口減少を招く悪循環も想定される。したがって、「人口減少局面でも豊かで持続的なまち」と「地域の魅力・コミュニティが発展するまち」の2つを長期的な目指すべき方向性として示している。この2つを長期的な方向性として、これを実現するために今後10年で取り組む具体の事柄を位置づける計画としたい。

(篠路駅周辺地区の位置づけについて)

- 篠路は地域交流拠点に位置付けられており、「地域の生活を支える主要な拠点としての役割を担う地域」とされており、特に北区北部3地区の中心としての役割が期待されている。
- 駅前には特に「都市機能誘導区域」と「集合型居住誘導区域」に位置付けられており、利便性と魅力を重点的に向上させるとともに、集合型の居住機能の集積を目指す区域となっている。地域交流拠点では、多くの市民が利用する施設を誘導施設に定めている。篠路には区役所や区民センターなどはないが、これらに準ずるものとして篠路出張所やコミュニティセンターなどが立地している。

(現況分析のまとめの再確認)

- 地区の現況分析として、強み、活かしていくべき点と弱み、改善していく点をそれぞれ挙げて、「エリアの特性・活動」の分野では、「若い世代が住み続けたいとなる仕掛け」や「地域資源の魅力を共有、伝え続けること」「日常的な地域コミュニティの場が重要」とした。また、「施設、土地の状況」については、「地域交流拠点としての更なる利便性向上が必要」、「利便性の高い居住環境など、子育て世代にも選んでもらえる環境が必要」、「にぎわい、交流の場の創出が課題」とした。

(北部3地区のまとめ)

- 北区北部3地区の拠点としてももう少し広域での分析も必要と考えて、追加の分析を行った。3地区いずれも、戸建の多い郊外住宅地であり、篠路同様、少子高齢化の進行が予想されている。施設や土地の状況を見ると、高齢者、福祉施設や保育園、幼稚園および高齢者、子育ての交流機能は3地区とも複数立地しており、一般病院は各地区に1~2施設立地、3地区とも診療所やクリニックは生活圏に複数立地、商業施設はどの地区にもある程度立地している。このことから、身近な生活を支える生活利便機能は3地区内で充足している。篠路には、一般的な地区よりも少し大きな行政、交流機能として出張所やコミセンがあることが特徴である。行政、交流拠点の役割に加え、北部3地区の拠点として新たな価値や地域の魅力を高めていくことが必要と考えている。

<質疑応答>

質疑なし

○ 資料説明

➤まちづくり計画について

(事務局)

(重点エリアの方向性について)

- 駅周辺地区を3つのエリアで捉えている。業務や商業などの機能が既に集積している「西エリア」に対して、鉄道高架や区画整理事業などが進み、その場所性から今後の発展が期待される「駅前エリア」と、広大な市有地を含み、民間開発等による新たな機能の集積によって地域全体への波及効果が期待される「東エリア」の2つを重点エリアに位置付けている。一般的な拠点では駅が交通結節点となり機能が一極集中し、その周辺に住宅地が広がっているが、篠路の場合は、駅を経由せずバスや車で移動する方も多く、駅前から広範囲にわたって住宅街が広がっている。従って、東西に広がる住宅街の範囲も考慮し、これら3つのエリアに機能をバランスよく配置し、地区全体が拠点の役割を果たすことで東西一体の拠点を形成する

ことが必要と考えている。

- 駅前エリアは前回の地域協議会で「交流滞在」「利便性の向上」というキーワードを掲げた。これをもとに「暮らしに必要な機能と人々の交流機能により魅力的な駅前を演出」というコンセプト案としている。北区北部地区の行政機能の中心であることなども踏まえ、エリア周辺に存在する地域資源を最大限に生かした交流、滞在が可能な場づくりを目指す。求められる役割として、生活利便施設などが立地することにより駅および駅周辺施設の利便性の向上、地域のコミュニティ形成に寄与する交流空間の創出、地域の資源を活かした活動、取組を考えており、「利便・交流ゾーン」という位置づけにしている。
- 東エリアは前回の地域協議会で「住みたくなる、住み続けたくなる」「周辺環境との連携調和」というキーワードを掲げた。住みたくなる、住み続けたくなるというには2通りの考え方があると考えており、魅力的な機能により間接的に人を呼び込むもの、それから住居、業務、教育機能など直接的に人を呼び込むことがある。これをもとに「多様な機能の集積により多くの人々が活動し、地域の活力源となるエリア」というコンセプト案を示している。市有地を活用して地域に活力をもたらすまちづくりを展開し、求められる役割として、「住みたくなる・住み続けたくなるまちとなるための魅力の創出」「多様な活動と生活の受け皿となり地域の活力を向上」を考えており、既存の福祉機能や商業機能も含めて「にぎわい・交流・福祉ゾーン」という位置づけにしている。

(各エリアに期待される機能像について)

- 駅前エリアに今後、期待される機能の例としては、小規模な買い物施設や飲食店などの商業機能、多世代が集まり交流できる機能、生活利便性の高い駅前居住機能、交流の拠点にふさわしい地域の情報発信機能、などが考えられる。
- 東エリアは、市有地について現時点での市の考えを先に示している。先ほど示した土地利用のコンセプトや周辺施設との連続性を考慮した機能集積を図りたいと考えている。周囲に保育施設や福祉施設のある市有地 A 街区については、特に周辺環境へ配慮した土地活用を図りたい。こうしたことに留意しながら、民間事業者への土地の賃貸や売却による土地活用を想定している。ただし、B 街区は現在パークゴルフ場として暫定利用されているため、運営団体や地域のご意向などを踏まえて将来の活用可能性を検討する。
- これらを踏まえた市有地に期待される機能の例として、「休日などに家族で利用できる商業・レジャー機能」「子育て世代をサポートする、子育て世代が交流できる機能」「若い世代をはじめ、就労者や学生を地域に呼び込める業務・教育機能」「周辺環境と連携した医療・福祉機能」「多世代の健康増進に寄与する機能」「オープンスペースなどの広場・交流機能」「その他、

居住機能など周辺と調和のとれる機能」などが考えられる。

- 各エリアにおける機能集積と社会基盤整備により東西市街地の回遊性の向上を図る。道路整備や鉄道高架によって、東西市街地の分断が解消され、移動の円滑化が図られるので、地区全体の回遊性が向上することになる。このため、中心となる駅前の顔づくりを積極的に行っていくことが必要と考えている。

(市有地利活用具体化に向けた前提条件の整理)

- 市有地にかかる都市計画制限について、市有地 A 街区は、第 1 種住居地域で篠路団地地区地区計画では公共・福祉関連地区に位置づけられている。市有地 B 街区は第 1 種低層住居専用地域、市有地 C 街区は大部分が第 1 種低層住居専用地域で、横新道沿いの一部が第 1 種住居地域で、篠路団地地区地区計画で沿道 B 地区に位置付けられている。篠路駅周辺地区は駅前と横新道-篠路通の交差部以外は住居系の用途地域となっており、住宅地としての様相を示している。
- 用途地域の制限について、市有地 B、市有地 C の大部分に指定されている第 1 種低層住居専用地域は、低層住宅のための地域であり、戸建住宅や店舗兼用住宅が建てられるが、単独の店舗等は建てられない地域である。市有地 A、市有地 C の一部に指定されている第 1 種住居地域は、戸建やマンションなどの住居を中心に、生活を支える機能の立地も可能な地域となっている。これらの住環境を損ねない程度として、床面積が 3,000 m²までの店舗などが建てられる地域である。大規模な市有地を有効活用しつつ、にぎわい、交流に資する土地利用とするには、第 1 種低層住居専用地域では非常に難しく、用途地域の変更など土地利用について適切な検討が必要である。しかしながら、周辺との調和やバランスを考慮すると第 1 種住居地域よりも緩い規制が必要かどうかについて慎重な議論が必要である。用途地域を変更する場合、専門家で構成される審議会に諮って判断されることになるので、市の一存で簡単に変更できるものではないことをご理解いただきたい。なお、学校や病院など公益的な用途は床面積の制限はない。
- 具体的な土地利用を考える上で、市場性や企業の考えも重要なため、企業へのヒアリング結果を改めてご説明する。これまで居住系では戸建分譲、商業系ではホームセンターや家電量販店、ドラッグストアやコンビニ、スポーツ施設やスポーツ関連施設、温浴施設など、身近な生活に関連する機能の進出ニーズが確認されていた。業務教育系では新たに医療施設として、職員住宅を含む高度医療施設の進出ニーズが確認された。ここに飲食施設は掲載されていないが、出店の直前にならないと判断できないというご意見が多数だった。なお、資料の表については、医療施設以外はコロナ前に実施したヒアリングのため、現在は状況が変わっている可能性がある。
- 札幌市では、市有建築物及びインフラ施設等の管理に関する基本的な方針

を定めており、今後の取組方針として、施設総量の抑制や総量規模の適正化を図ることとしている。今後人口が減少していく見込みであるなか、公共施設の新設は非常に難しく、複合化による再編成を進めていくことが基本的な考え方となっている。

(機能の配置例と効果について)

- 企業の進出ニーズから大きく居住機能、商業機能、業務教育機能の3つの機能が考えられる。居住機能では戸建分譲のニーズがあったが、これらは比較的小さな土地でも可能で、企業からは広すぎて全てを分譲するのは難しいというご意見もあった。地域住民の利便性を高める商業機能では地域内利用を主とした施設として、ホームセンター、ドラッグストア、スポーツ施設等が挙げられたが、実際に何が実現するかは商圈やその時代の状況に左右されることになる。就労者や学生など地域外から人を呼び込む業務教育機能では、高度医療施設と職員住宅の進出ニーズが示された。これらの施設については、大きな土地が必要で、立地機会のタイミングがあうことは稀という特徴がある。まちづくりの方向性からみたときに、市有地を全て居住機能で埋めてしまうことは適切ではないというご意見が第1回地域協議会であり、市有地のような大きな土地でなくとも、実現の機会はあるため、残り2つの機能についてそれぞれ配置例を示して検討する。本日は、配置例①として、買物、サービス利用施設で利便性や魅力を高める機能配置、配置例②として目的性が高い業務機能と付随機能により地域の活力を維持向上する機能配置の2つをお示しする。
- 配置例①は、商業系の機能を中心に据えた配置例である。にぎわい、交流に寄与する民間開発として、ホームセンターや薬局、温浴施設、スポーツ施設など多様な用途で市有地を活用していくパターンである。期待される機能例で掲げたような多様な機能の組み合わせによるまちづくりが可能で、地域住民が日常的に利用できるにぎわい、交流機能の進出により、流入人口の多い子育て世代にとっての篠路の魅力が高まる。民間ノウハウの活用のためには公募による民間提案が有効とも考えている。また、こうした施設の立地による雇用創出の可能性も考えられる。しかしながら、参加企業の商圈分析により市場性や事業収支などを踏まえた展開となるので、実際にどんな機能が導入され、どの程度にぎわい・交流機能が向上するかは不透明、という懸念もある。B街区についてはパークゴルフ場の動向を見据えて、将来的な可能性を検討することになる。B街区に隣接する篠路コミュニティセンターは、北区北部地区や篠路における交流の拠点であり、将来にわたって地域コミュニティを支える重要な施設と考えているので、こうした施設とまちづくりの関係性も重要だと考えている。
- 配置例②は、業務居住系の機能を中心に据えた配置例である。進出ニーズが示されている、医療施設をC街区に、宿舍をA街区にそれぞれ配置している。この例では、市有地の面積を最大限かつ継続的に有効活用可能で、

見舞客や研修生等の来街者、就労者の増加により、駅前を含めたまちづくりの期待が高まる。また、宿舍の設置により、働く世代を中心とする若い世代の人口増加が期待され、医療関連施設等の立地による雇用創出の可能性も考えられる。進出ニーズが示されているのは、日常的な診療施設ではなくドクターヘリでの搬送もあるような高度医療施設のため、地域が日常的に利用する施設ではないが、例えば、地域の方がくつろいだり、イベント利用できるようなオープンスペースの整備や地域連携の取組などによる日常利用を検討していく。B 街区については、配置例①と同様に、パークゴルフ場の動向を見据えて、将来的な可能性を検討することになる。

- それぞれの配置例のまとめとして、配置例の①の場合、期待される効果として資料に提示している 3 点があった。また、懸念事項として参加企業の商圈分析によるため、どの程度にぎわい、交流機能が向上するかは不透明という点があった。一方、配置例②では、期待される効果として資料に提示している 4 点があったが、懸念事項として地域が日常的に利用する施設ではないことが挙げられる。本日お示ししたのはあくまでも例だが、本日まで確認いただきたいのは、どちらの配置例も目指すべきまちづくりの方向性と相違がないか、という点である。計画そのものでどちらかに限定するわけではなく、いま現実的に考えられるものについて、それぞれの長所と課題をご確認いただければと思う。

<質疑応答>

(委員)

(市有地利活用、事業全般について)

- 理想論だが、現状を踏まえると実現するのか疑問。こうしたまちづくりの検討を始めてから 2、30 年経ち、その間に色々なコンサルタントを入れて、測量も何十回やって、恐らく 10 億円以上かかっていると思う。これほどお金があれば、いいまちになっている。

(区画整理事業の補償算定に関して)

- 物価の上昇率を考えていないので、家が再建できない。立ち退きを迫られているが、住宅や店舗を立てる試算をしたら、地代が 3 割になっていた。
- 商業施設が立地しても採算があわないのではないかと。大型施設になると駐車場も作るし、1000 m²以上の建物でも建たないのではないかと。駅前でも 3.5ha ぐらいしかない。
- 建物が立っていない土地を市の所有とし、今まで雪が投げられたところも柵が作られている。「今年雪を投げるところはどうしてくれるのか、何とかしてほしい」という声も聞く。開発が進んでいく途中で不便を感じる会員が出てきている。篠路駅前には冬になると敷地内から道路へ雪を運び、山にしている。ランタン祭り際には雪山を崩すだけでも大変な苦労だった。公園ができるがそこに雪を投げていいのかなど、住民の視点で考えてほしい。

- ・旧琴似川に水を流すという計画だったが、全然水が流れていない。川自体を狭めて水の流れを多くしようと考えたのかもしれないが、本当に水の流れるスペースがなくなりそこに草が生えている。橋の上からごみを捨てる人がいて、それがひっかかり溜まっている。

(事務局)

- ・実現性については、過年度に行った調査などを取りまとめたものなので、物価の上昇やコロナ禍での状況が変わったことも配慮していかなければいけないが、一旦、過年度の事業者ニーズを踏まえた上で実現の可能性があるもの、ということで取りまとめた例を挙げさせていただいている。実現に向けてはまだまだ市の主導でやることもあるし、皆様のご協力もいただきたいと考えている。こういった計画をつくる段階において、どこまで具体化・具現化して書けるかという問題もあるが、地域のポテンシャルをあげるため、地域の皆様のためになるために計画づくりを行いたいと考えている。特に市有地は札幌市である程度は事業者への働きかけもできる。駅前の個人が所有されている土地に関しては、計画をもって、所有者の方々に促して、協力を得ていくといった手段達成してまいりたい。
- ・測量についての話などは事業に絡む問題なので、個別で改めてご相談させていただきたい。

(委員)

(魅力ある地域形成について)

- ・JR 篠路駅の一日の乗降人員はおよそ6200人で、東側と西側の利用者は約半数、東側は3000人の乗降客がいる。篠路地域は少子高齢化で10年後住民が減っていく中で、篠路駅前の開発でにぎわいのあるまちにするには、JRを利用しているお客さんに利用してもらおう。そのためには、駅前には札幌市がビルを業者をお願いして建て、居酒屋など通勤客がそこによって一杯飲んで帰れるというテナントなどをビルの中に入れる。駅前に公園の予定があるが、公園をつくっても駅前が賑やかじゃないと、公園に座る人もいない。
- ・全道に道の駅が立地している。北海道の魅力のあるものが置いてあり、お客さんが殺到する。札幌市ではできないのかもしれないが、道の駅に近いような、ロイズや白い恋人など、様々な名産を販売できて篠路駅前に行けば色々買える、という建物を持ってこなければ、駅前の繁栄はないと思う。地域住民より、JRを利用しているお客様を考えて、建物を建てて、テナントを入れる。
- ・中央バスの便数が1時間に2本しかない。中央バスは採算が取れなくて間引きながら運営しており、そうした中で篠路を発展させていくのは非常に厳しい。採算がとれないのであれば札幌市が助成をするという考えも持っていていかなければいけない。

- ・篠路神社周辺はコンビニも何もなく魅力がない。しらかば台病院がオープンし、従業員が約 200 名いらっしゃるが、従業員の方のコンビニがなく、バスの本数が1時間に2本しかなく通勤に不便と、関係者が悩んでいることを聞いた。交通体系まで札幌市が真剣に考えないと、10年後に色々な事を計画しても、魅力ある篠路駅前にはならないと思う。

(事務局)

- ・土地利用については人口減少を緩めるようなものを考え、JR利用者に利用してもらおうといった方向性は貴重なご意見なので、ぜひそういう形になるように盛り込みつつ検討していきたい。中央バスに関係することについては、人口が増えてくればバスが増える、バスを増やせば人口が増える、そうした考え方も含めて、市の関係部局とも連携をとって調整したいと思う。

(委員)

(東西方向の交通、地域主体の活動について)

- ・大変立派な資料を見せてもらって、非常に素晴らしい計画だと正直思う。
- ・いま現在、篠路の人流が非常に滞っていると実感している。資料にはなかったが、東西方面は非常に不便で、それをまず早急に市の方で手当てをしてほしい。特に横新道の渋滞問題をまず解決しないと、立派な計画があっても、人の流れはスムーズにいかないと思う。
- ・将来の篠路を願うのであれば、現在できることから手をつけてちょっとずつ実行していくべきだと思う。例えば先ほど他の委員が仰ったように、旧琴似川の水が流れず、ゴミだらけで、草が生えて、不潔極まりない状況を、地域のボランティアの手に頼る、市に音頭をとっていただき少年野球やサッカーチーム、小さな企業などの単位で声をかける、半日もかけず1時間でもいいので篠路をきれいにしていくなど、小さな積み重ねからやってみて、実行して、反省して、次回の会議につなげる、ということが望ましい。
- ・シノロリビングの内容(社会実験)は非常に楽しみ。実施時期は寒い、暗くなってしまう、などと色々あり、もっといい季節にやればよかったと思うが、コロナでどうにもこうにもならずしょうがなくこの時期になったのかと予想する。まずはこういったことからやってみるべきではないかと思う。

(事務局)

- ・東西方向の交通のご指摘については、篠路の社会基盤整備の中で道路整備を一緒に進めている段階である。もう少しお時間を頂ければ徐々に解消していく予定。
- ・旧琴似川については、川を整備することはできても、水を増やすことだけ

は自然の摂理のためできない。後ほどの地域主体のまちづくりの中でも仰っていただいたボランティアなどがテーマとなるので、そうしたことを目指すべきかと思う。

- 社会実験については、今年はまずやってみることを主題でやってみようと思う。今年の反省を踏まえて来年はもっと良い時期にできるよう考えており、小さなことから進めていくところは頑張っけてやっけていきたいと思う。

(委員)

(市有地利活用の札幌市としての方向性について)

- 市有地について、札幌市としては何をつくりたいのか。こうして計画ができていくということを会議で説明した経緯をくりたいのか、何か案があるのであれば言っけてほしい。

(事務局)

- 今の段階では、過去に事業者からご意見を頂いたものやこの協議会でのご意見を踏まえ、挙げていく各々の機能が来た場合に将来的に篠路のまちづくりに寄与できるかどうかを提示している。札幌市としては、篠路の現況を踏まえたときに、生活利便施設についてはある程度揃っているという背景のもと、先ほどご意見が多かった、人口減少を緩やかにできるもの、人口が増加するようなものが一番望ましいと思っている。賑わいが創出できるような商業、店舗などが後から付随してくるような形である。恐らく今の時点で何か「あて」があるのではないのか、というご質問だと思うが、今の段階ではまだ明確に「ここ」という決め方をしている段階ではない。お示しした2つ配置例は、例えば中身が多少変わることはありうるが、大きな方向性としては「商業、レジャー機能」もしくは「業務居住機能」とし、まちづくり計画策定後に企業立地していただくことを目指していくことになる。

(委員)

(立地機能・規模について)

- 配置例①では大型の商業施設となっているが、もっとミニマムな小さな単位でお店を作るぐらいが適切で、首都圏のようなまちづくりはできないと思うし、ホームセンターを誘致するなどは合っていないのではないのか。子育て世代は商業施設には近くても遠くても車で行ってしまう。高齢化という面では、拓北の方では高齢者の買い物難民の話も聞くので、そういったところを考えていけると良い。
- 駅前に関しては、大きなビルを建てることは想像つかない。どこが立ててどこが入るのか、会社帰りのサラリーマンが歩いて飲みに行く、そんな魅力があるところが来るのか、来ても定着するのか、と思うので、行政主導のような駅前に出張所を移転するなどの方がいいのではないのか。小さい子

供がいると、公園に良く行く、コロナ禍でも子供を遊ばせるのに公園が密になっているという状況もあったりするが、公園は好んで行くので、そういった場所のほうが良いと思う。

- 配置例①はあまりいいと思わないが、配置例②の病院や職員の寮がある方が、病院がある限りはそこにスタッフが住み続けるので、住民は確保できる。近くに土地が空いていればコンビニができたりするのではないか。しらかば台病院については、コンビニがなくご飯に困っていると私も聞いた。駅前には小さいコンビニや、まいばすけっとのような店舗の規模で十分ではないかと思う。

(事務局)

- 頂いた意見を踏まえて検討してまいりたい。出張所の移転も一つの方法だと思う。そういった方法も今後検討していきたい。
- 配置例②についても、そこで人口が増えていくということが周辺の開発ニーズの高まりに繋がっていくと認識している。目指す方向の一つとして考えていきたい。

(委員)

(地域で話し合う場の重要性について)

- 土地の使い方を考えるのがこの協議会の一つのテーマであると理解し、P40に本日の特にご確認いただきたいポイントとして「配置例①、②どちらもまちづくりのお方向性と相違ないか」とあり、「誰もが暮らしやすく笑顔あふれるまち」という方向性と相違ないか、と問われていると考えた場合に、住んでいる私たちがなにを取り組むべきか、もっとこの場で地域のみんなと話し合える機会が持てたらいいと感じた。地域主体のまちづくり活動について、主体になる人に委ねるしかないという説明があったが、主体になる人がいなければ、配置例①、②でもどんな配置例だろうと「誰もが暮らしやすく笑顔あふれるまち」にはなっていないのではないかと。先ほど他の委員が仰ったように、小さなことでもいいからできることからやっていくというのは、本当にその通りだと思う。コロナ禍で地域の皆さんと話す機会がなく、今日久しぶりにここへ来て、久しぶりに顔を見て安心したというか、お元気だったんだなと思った。地域のみんなの顔が見えるまちづくりをしていく必要があると感じた。先ほどのシノロナビに書かれていることや、これからお話して頂く中にそのようなことが盛り込まれているのではないかとと思うが、色々な世代の方、色々な状況の方と一緒に地域づくりをしていきたいし、この協議会自体が終わった後も、みんなで話し合っていく場は必要ではないかと感じている。

(事務局)

- まちに携わる主体という部分はとても重要であり、後ほどテーマの中でご

説明させていただきたい。

(委員)

(用途地域による規制の緩和について)

- P33 の居住系用途地域における土地利用の制限について、第一種低層住居専用地域と第一種住居地域は用途地域の変更が必要と思うが、近隣商業地域や商業地域に変更するのか。札幌市内の地下鉄のメインの駅である麻生や琴似は、容積率が300%や400%の場所もあった。そういった形で容積率も緩和されれば土地の有効活用がされると思う。

(事務局)

- 都市計画については、前提条件として市全体のバランスを見て住居系の地域、商業系の地域を定めている。その中でいま篠路地区についてもこうした制限となっていることが前提であるが、商業地域まで変更していくかは別として、今後まちづくり計画を作っていく中で、地域からの要望やまちづくりの方向性を踏まえて、求めている機能を持つ建物が建つようにすべく、地域の地区計画や用途地域を変更する必要がある場合は、今後の具体的な提案や考え方のもと都市計画審議会を経て、変更する可能性がある。

(委員)

(市有地利活用の方向性について)

- 市有地利活用については、札幌市の土地に公募をかけて来たところに売るのがまちづくりなのか、というのが正直なところ。近隣の人が使うのか、他のエリアから人を呼びたいのか、中途半端だと思う。篠路にホームセンターやスポーツジムもないわけではないし、篠路の発展のイメージから程遠い。駅から離れたところに店舗ができるのはどうかな、駅前に商店街がついて駅前が変わったというのが篠路の発展のイメージなのかな、と思った。こんなに寂しい駅前にはほかに札幌市内にはないと思うので、そこを札幌市の方で、商店街になるように呼び込んでもらうなど、そういった形の方がわかりやすいまちづくりだと思う。公園も離れてあるが、公園も利用できるなど連続性があると少し違うかもしれないという印象を持った。

(事務局)

- 本日の議論の主な部分は市有地で駅前は議論の具体的な題材がない状況だったが、駅前も今後の展開で示させていただきたいと思っているので、その際は本日皆様から頂いたご意見を議論させていただきたい。
- 単純に民間企業に土地活用をしていただくのではなく、商業施設を求めた場合は、公募という形で資料のP22にある機能をより具体的に提案頂いた企業にまちづくりを担っていただく、というイメージである。今回提示

したのは一例であり、実際に進める段階になってから具体的に提案を求めて、皆さんと議論した機能を実現する企業と進めるということになるとご理解いただきたい。

(委員)

(市有地利活用の配置例について)

- 市有地 B、C は小さい頃から見ている場所で昔から空き地だった。市有地 C の向かいも昔は空き地で今は病院が立地しており、そういうことを考えるとこの辺に病院ができることもありかと思った。第一種低層住居専用地域なので、この土地を全て何かに使うのではなく、一部住宅を立てるのもありかと思う。いま、札幌市の空き地が少なく、家を建てたい若い方たちが土地探しに苦戦しているという話も聞くので、そういった土地利用に充てて若い人を取り込んでいくことも考えられる。周辺に商業施設もあり、車利用もある状況なので、そういった意味ではここに商業施設がなくてもいいのかなと思う。配置例②の場合、研修生が来たり見舞客がきて栄えていくという意味では、これから JR 篠路駅が高架線になったり、バスがもし本数が増えたりすると往来しやすい環境も作っていけるのかと思うので、いいと思った。

(事務局)

- 過年度のヒアリング調査から、広い土地全部を住居とするのは難しいが、一部でも若い世代が暮らしていける機能を導入することについては今後、まちづくり計画を作り、最終的に民間活力を引き出して具体化する時まで引き続き検討していくことになる。

(委員)

(駅前エリアの機能、まちづくりの方向性、公園の管理について)

- 篠路駅前には以前は食堂があったが、今はなにも無くなってしまった。篠路神社に来た方から「篠路って駅を出て食堂や買い物するところがない、裏に行けばあるのに」といった声を耳にすることがある。駅前には人が往来しているだけである。お店に歩行者が寄ってくれるか、魅力のあるお店を出してくれる方がいるのか、なかなか難しく、民有地なので地権者意向にもよるところがあるが、人が立ち止まるお店などができればいいなと思う。若い方は車を使えるが、高齢者になると免許を手放しても気楽に歩いて行けるお店、あるいはタクシーを利用して遠くのお店に出かける、といったことがあるといいと思う。
- 市有地については、大きな商業施設、あるいは医療病院には、施設の他に大きな駐車場が必要になり、建物に利用するスペースが限られる。そこをどのように利用するか。一方、大きな施設には働く方が来るので、そうした方の住居利用も考えられる。遠くから通う方には交通の便がもっと良く

なるといい。そのあたりを、どこから議論を進めていくのかが難しいところである。

- 若い方が転入すると子供も増える。公園の整備について、年に3回草刈や清掃を業者に頼んでいるようだが、草刈りをしたまま草をまとめておらず、きちんとやってくださらない業者がいる。公園ができて、子供が刈りっぱなしの草に足を取られて転ぶ恐れがある、また、このようなことを誰に言えば良いのかわからない、という声があった。業者に声をかけたら少しはきれいにしたようだが、札幌市自体は非常に大都市でたくさんの公園を持っており、全ての公園に手が届かないかもしれない。一方でちゃんとした業者に頼むなど何をするにも資金が必要となり、難しいところがあるかもしれない。地域住民が多少なりと手をかけてもいいと思う。できることから始めていければいい。
- 駅前エリアについては、鉄道の高架化と共に、ある程度の建物ができ、出張所や様々な店舗が入り、高層部を住居とすると居住者が店舗利用できる、というような壮大な計画を持って欲しい。

(事務局)

- 提案したまちづくり計画の資料にある機能を実現できるよう、地権者と一緒に議論してこれを目指すよう努力していきたい。

○ 資料説明

➤ 地域主体のまちづくりの取組・活動について

(事務局)

- まちづくりの潮流は公民連携。行政中心ではなく、住民の方と一緒に計画を考えて、理想像を共有したり、多世代が地域活動をしやすいよう、篠路地区で目指すまちづくりを行っていきたいと考えている。
- 地域協議会や検討委員会で、キッチンカーが欲しい、自然豊かな景観をどう残していくのか、文化的な資源、活動をどう残していくのか、というアイデアやご意見を頂いた。そのために、誰が、どうやって、何を展開していくか、検討を深めていくために、まず地域で目標を共有して、実践することが必要になる。また、実践する上では担い手の発掘なども必要になってくる。

○ 資料説明

➤ 今年度行う社会実験について

(事務局)

- 社会基盤整備事業によりまちの姿が変わっていく中で、将来の地域主体のまちづくりを見据えて、過年度のまちづくりの議論においてご意見のあったアイデアなどの試行的な実施や、活動できる篠路駅東口周辺の場の可能

性や空間利用の需要について検証できればと考えている。こうした実践の機会、小さくてもやってみる場として、篠路駅東口に広場空間を作る社会実験を行う。

- 駅前の赤レンガ倉庫周辺で資料に提示している敷地で実施する。
- 実施イメージとして、資料に提示する敷地①では、広場空間を作るということで人工芝やテーブル、イスなどを置くほか、こういった活動、場所を求めているのか意見を集約する情報掲示板の設置を考えている。土日などはキッチンカーを招く。資料に提示する敷地②では、例えば、滞留できる空間やキッチンカーが来て飲食できる空間の整備に加えて、地域の皆様の活動が入っていくようなことを一緒に考えていければと思う。篠路地区を象徴する藍染めのワークショップや、ランタンのワークショップなど、地域に合うものや、防災、子育てなどを考える、町内会の会合で使う、などのご意見を期待している。
- 期間は10月31日から11月7日の一週間程度を予定している。実施時間は曜日によって変えたいが、概ね11時頃から、夜間利用についても実験も行いたいので、20時までと設定している。
- キッチンカーは曜日に応じて時間帯を調整している。また、検討委員会の小澤委員から、その場で組み立てられる仮設の茶室を提供できるかもしれない、というお話を頂いており、土日での設置を検討している。コロナ禍で住民同士が話をする機会がなかったことも踏まえて、トークイベント的に話す機会を日曜の昼頃に設けたり、皆さんが活動されていたことを土日祝日のワークショップで扱うこともできればと思う。
- こんなことできそう、こんなことをしたかった、というご意見があれば頂きたい。
- コロナ禍の状況も踏まえ、緊急事態宣言が発令された場合は中止としたい。

(委員)

(社会実験の実施規模・内容、駐車場について)

- 敷地は狭いが、どのような規模で考えているのか。
- 寒い時期で暗くもなるので、温かいものが食べられる、もしくは子供が喜ぶたこやきやクレープを予想していたので、茶室はびっくりしている。どんなキッチンカーを呼び、どんな食べものを提供してもらえるのか。
- 歩いて来る場所でもないのに、駐車スペースを確保しないと難しいのではないのか。駅前通りに停めて歩くと予想される。

(事務局)

- キッチンカーはまだ調整中だが、コーヒーや温かい飲み物、軽食、サンドイッチやデザートを取り扱っている事業者も考えている。温かいものを食べられたり、デザートなど子供が好きなものを食べられたりするといい。

(委員)

(社会実験へ来場する世代の偏りについて)

- ・コロナ禍でしょうがないとは思っているが、この季節では昼間でも寒く、若い方は参加できるかもしれませんが、高齢者の方はなかなか参加できない。こうした時期に社会実験をやってデータが取れるのか。若い方と比べ高齢者の意見が全然入ってこないことが気になる。

(事務局)

- ・実施時期については我々も苦しいところである。検討中ではあるが、暖を取れる薪ストーブ等を設置する、お昼の温かい時間に来ていただくなどして、一緒に社会実験を考えていければと思う。

(委員)

(コロナ禍における地域活動について)

- ・非常に良い取組だと思うが、昨年から各町内会でもコロナ禍での自粛で色んなイベントが中止となっている。飲食をすることは非常に難しいのではないかと。また、非常に寒いのでテントを張り、その中で話し合うということならわかるのですが、外気温の中で集うということは難しいのではないかと。ここにそんなに予算をかけて開催する必要はないかと考えている。

(事務局)

- ・今回、社会実験をすることは、次年度以降に向けて、ご意見のあった飲食機能や集える場所、話し合える場所などが駅前に必要ではないか、というお話も踏まえ、そうした場を仮設で展開してみて、有効性を実験してみるということ。なかなか難しい時期ではあるが、コロナの予防対策も講じて、どうやって未来を見据えて考えていけるかというところを一緒に考えていければと思う。

(委員)

(周知方法とワークショップ企画について)

- ・どのような周知方法を考えているのか知りたい。

(事務局)

- ・社会実験が始まった段階で、近くに来られた方に周知を行っていきたい。また、JR篠路駅の掲示板にポスターを掲出させていただきたいと考えている。さらに、市のホームページにシノロナビを掲出することと併せて、フェイスブックページを立ち上げて、若い方にも周知できる形をとっていければと考えている。
- ・ランタンまつりを実施された立場、経験から、この場所でランタンワ

ークショップを実施することはどう思うか。

(委員)

- ・駅前では何回かランタンまつりを行って来て、やはり情報を知って来てくださる方が結構いた。情報がないとお客さんは来ないと思う。一度金曜日に実施したことがあり、帰宅の時間帯に帰宅途中の方々がランタンを見てくださったので、よかったと思う。ただ、土日だとJRを使う方が少ない印象がある。せっかくキッチンカーが来ても立ち寄る機会がないかと思うので、例えばスーパーやコミセンなど、地域の方が利用する場所にチラシやポスターを張ってもいいと思う。

(事務局)

- ・貴重なご意見ありがとうございます。

(委員)

(社会実験全般)

- ・現状は草がぼうぼうで、お祭りが出来るような場所ではないと思う。街灯は一灯ほどで夜は暗い。ランタンを設置するにも準備期間が足りないのではないか。

(事務局)

- ・草刈やゴミ拾いを行い、利用者が転んだりしないよう準備を行ったうえで設置する。また、夜間は投光器や電球などの照明を設置する予定である。

(事務局)

- ・ランタンについては製作するワークショップなどを検討しており、実行委員の方にもご相談しながら皆さまと協力し、できることを一緒にやっていきたい。

(委員)

(地域団体との連携、展開について)

- ・町内会への呼びかけはしてもよいのか。

(事務局)

- ・ぜひお願いしたい。委員以外で活動をしたいと考えている方もいると思うので、設営のボランティアなど是非お声がけしていただければと思う。
- ・みんなが参加できるイベントになれば、実験の成果になると思う。今後、地域の団体に呼び掛けるなど、暖かい時期に連携して出来るのであればやりたいと思っている。

(事務局)

- 今回の目的は、先ほどご説明させて頂いた通り、集客をして賑わいを作るよりは、本日までご意見頂いた通りコミュニティの場を作っていく、そのときにこういったオープンスペースや駅前の空間がどれだけ意義のあるものなのか、そういったことを実際に検証していきたいと思っている。また、時期についてもご意見があったが、今回がすべてではなく、今回の経験、反省を踏まえながら、来年以降の開催時期、どれだけ労力をかけたらいいのか、そういったことを、ご意見を頂きながら次につながる企画を練っていければと思う。

○ 資料説明

➤ 地域のステークホルダーと課題

(事務局)

- 地域主体のまちづくりの取組、活動を進めていくにあたって、皆さんが普段悩まれていること、もっとこうだったらいい、ということから、新たな場や活動により解決できることを一緒に考えて、エリアの価値向上や地域活動の可能性の広がりに持っていけないかと考えている。
- 町内会で、もっとこうだったらいいのに、またはこまっていることなど、お聞かせいただきたい。

(委員)

(道路環境、除雪について)

- 駅前の地区には、札幌市の除雪が入ってこない。また、市道ではないので、道路が穴だらけの状態である。

(事務局)

- ソフト的にどう解決していけるかということも今後議論していけるとよい。
- 子育てに関わる方でご意見あるか。

(委員)

(地域課題の解決について)

- 子育ても含めて全般的に、篠路まちづくりテラス和氣藍々で起きていることと繋がっていると感じた。地域の困りごとと困りごとで人が結びついていく事例がある。
- 共稼ぎでお仕事をされている母親が、「子どもが学校に行きたがらず、学校に行かない日は自分が学校を休まなければいけない」と困っている。そういう日に、お店の方でお子さんを看られないかという相談をしていた。
- なかなか学校に行けていない中学生が、3~4か月ぐらい、週に1回、日

中にお店のお手伝いに来てくれている。一年間ほとんど外に出られず母親が悩んでいたが、仕事をするようになって外に出る機会ができて、表情が明るくなってきた。学校の先生にもそうした取組をしていることを相談した上で来ていただいている。

- 家で野菜が取れすぎて困っているという方に、お店の前で置いてみないかと持ちかけ、週末に野菜を売っていただき、地域の方とやり取りしていただいている、ということも起きている。
- 近所に包丁研ぎが得意な方がいて、お店の包丁を研いでくれていた。地域の方々が、そうした方がいるのであれば私の家の包丁も研いでほしいと包丁を持って集まるようになったり、人がつながっていく印象を感じている。

(事務局)

- 皆さんの困っていることを、子どもに限らず、学びを求めることや自分の手では負えないことを共有して解決できればと思う。
- イベント関係で、困っていることなどお伺いしたい。

(委員)

(道路事業について)

- 道道花畔札幌線の拡幅工事が、今年度完成する予定だった。それに合わせて郵便局前の信号を移設するというようお願いしていたが、拡幅工事が一部遅れていつになるのかわからない。地域住民の方には既に令和5年度には道路拡幅が完成し信号機も移せるという情報を流していたと思う。住民の方から、工事がいつになるのか、信号もそれに合わせてやるのか、そういった質問が来た時に答えられない。拡幅工事は相手もあることですし、道路を拡幅するときにもお金かかるので2重に経費が掛かることになりませんが、信号機だけでも先につけてほしいという方がたくさんいらっしゃる。信号機移設だけでも先に進めてもらいたい。

(事務局)

- 信号機の件に関しては、担当部署に確認して別途ご連絡する。

(事務局)

- 今回、この地域コミュニティのあり方を考えることで、先ほどご意見頂いた通り、この地域の課題を地域の方々が連携し共有しあうことでよりよい環境づくりが出来るのではないかと、そういったものとこれから進む市有地活用や区画整理といったハードの部分がかけていけば、皆さんが暮らしやすい、長く住み続けたい、そういったまちが出来ていくのではないかと考えている。それを一つのきっかけとしていながら、地域間、組織間の連携の可能性をもっと掘り下げていきたい。今回、この時間だけでは話

し足りないと思っている。ぜひ次回の協議会に向けて、皆さんの会に所属されている方から、どういう課題があるのか、そしてあの組織と解決できるのではないか、そうしたアイデアをぜひ次回持ち寄っていただきたい。また、それを解決するために、例えばコミュニティセンターが今後もあるといい、公園が多くできたらいいなど、小さいことでも結構なので、こういった場があったらいいというアイデアを合わせてお持ち頂けると、社会実験でやってみよう、5年後10年後にできることをまちのなかで作っていけないか、といった検討に繋がるのではないかと考えている。なので、皆さんが所属している組織や身近な方が抱えている課題、他の組織と連携しながら解決できるのではないかというアイデア、それを展開できるこういった場があったらいい、という3点を、ぜひ次回の地域協議会の際に持ち合っていていただいて、アイデアの投げ合いをしながら、新しいアイデア、発想に繋げていけたらと考えている。

3 次回日程の案内など

(事務局)

- 次回の地域協議会は1月頃を予定している。委員の皆様には後日、日程調整のご連絡をする。